

訪問看護ステーションあやめ氏家

さくら市卯の里2丁目22の4 さくらハイウェイ103



管理者
村上 史子 様
利用保険割合
医療保険：10割

あやめの花言葉は、希望、信頼。落ち着きのある深い紫は、私たちに癒しを与えてくれます。一方でしっかりと地に根を張り、あやめの花が広がっていく様子は、地域に根差した訪問看護に似ていますね。(記者より)

施設のアピール

訪問看護ステーションあやめ氏家は、令和3年4月に開設された精神科特化型のステーションです。スタッフは看護師3名、相談員1名で運営しています。(株)ファーストナースが運営する訪問看護ステーションあやめは、県内に12カ所(令和3年7月現在)あります。精神疾患をもつ利用者様の生活に深く関わらせていただける大切な仕事だと思っ日々支援しています。



インタビューには県央・東北地区担当の中島相談員さん(写真：後中央)にもお答えいただきました。

連携している主な医療機関

佐藤病院、氏家病院、岡本台病院、那須こころの医院等県内の精神科医療機関と密な連携を図っています。

施設の役割や特徴について

医療につながるから

看護師は医師の指示書がなければ訪問看護を提供できませんが、精神疾患が疑われる方の中には、ひきこもりとなり受診すら難しい状況の方もいらっしゃいます。御家族や地域の支援者から、「病院で診てもらいたいけれど、本人はひきこもっていて顔を見ることができません。どうしたらいいのでしょうか?」と相談を受けたとき、あやめ氏家では、少しずつ信頼関係を築きながら訪問し、適切な医療につなげられるよう支援していきます。無理をせず御本人のペースに合わせ、まず郵便受けに手紙を入れ「私たちがいることを忘れないでほしい」という気持ちを伝え続けたことで、ドア越しに姿を見せてくれるようになり、最終的には医療機関受診につながったこともあります。

服薬管理について

精神科特化型の訪問看護ですが、利用者様の中には身体的な疾患をお持ちの方も多くいらっしゃいます。大切な薬でも数や種類が増えてくると、

「飲み忘れちゃった!」なんていうことも。そんなとき、あやめ氏家では、指示書をいただいている精神科の薬だけでなく、身体科の薬も併せて利用者様が管理しやすいようアドバイスしています。私たちはいつも利用者様の生活を第一に考え、関わっています。

心に残った患者さんとのエピソード

自殺ゼロを目指して

「今までお世話になりました。これから電車に飛び込みます。」若い女性の利用者様から突然の電話でした。話を聞けば、遠方に住む彼氏に会いに行きケンカして、「もう嫌になってしまった。死のうと思ったけれど、ふとお世話になった訪問看護師の顔が浮かび、最後にお礼を言いたくて電話しました。」と話してくれました。その電話を受けた訪問看護師は、利用者様と話を続けながら他のスタッフと連携し、本人の居場所が何番ホームなのか特定し、駅員さんに連絡を入れ、駅に向かい、利用者様を助けることができました。最初の電話から1時間くらいの迅速な対応で一人の大切な命を救うことができたのです。利用者様との日々の信頼関係があってこそ、つながられた命だと思えます。

精神疾患をもつ方には、疾患の特性故に社会から孤立してしまったり、生きづらさを抱えながら生活されている方もいます。

「自殺ゼロにしたい」そんな思いから、訪問看護ステーションあやめでは、開設エリアの考え方として、利用者様のお宅に30分以内で訪問できることを目安にしています。何かあればすぐに県内に12カ所あるあやめ同士で連携し対応できる体制は、利用者様の大切な命を守るためにも大切なことだと思っています。



ステーションは氏家駅近くのアパートの1室にあります。右から、村上看護師、石嶋看護師、能美相談員、藤井看護師。